

新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）2

中西弘樹¹⁾

Additional Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture 2

Hiroki NAKANISHI¹⁾

はじめに

本稿は2015年に発刊した「長崎県植物誌」(中西2015)の目録の補遺を中西(2016a)に続いて記載するのが目的である。すなわち、各種の目録の中の県内分布の項で、標本を採集しているにもかかわらず、多くの地名をあげていないものを追記しておくと共に、その後発見された県新産の植物と、希産種の産地追加を記録しておきたい。記載の形式は地名の後に、国土地理院5万分の1地形図の図幅名および4分割の位置、3次メッシュ地図番号、海拔、採集または確認年月日、標本番号の順に記す。情報をいただいた江頭一政氏、上田浩一氏、出口敏也氏、スゲの標本をご確認にいただいた岡山理科大学星野卓二教授にお礼を申し上げます。

県内分布で産地が記載もれのもの

4. イソヤマアオキ *Cocculus laurifolius* DC(ツツラフジ科)

県内分布：男女群島，五島（大浜，黄島，椴島），新上五島（相ノ島），長崎（深堀，蚊焼島），平戸（下阿値賀島）

県新産の植物

県新産の在来種

9. オオクジャクシダ *Dryopteris dickinsii* (Franch. et Sav.) C. Chr(オシダ科) 図1.

佐世保市世知原町北河内免 [伊万里, 4929 76 11], 430m, July 9. 2016, (No 23688)

溪流沿いの林床に生育していた。この産地はすでに川内野(2015)によって報告されている。遠くから見るとイワヘゴに似ているが、葉はやや黄緑色で、下部羽片は短く、何よりも鱗片が明るい褐色である点で本種と同定できる。



図1. オオクジャクシダ

10. ハコネオオクジャク *Dryopteris × hakonecola* Sa. Kurata (オシダ科) 図2.

佐世保市世知原町北河内免 [伊万里, 4929 76 11], 430m, July 9. 2016, (No 23687)

オオクジャクシダとオクマワラビの雑種であり、オオクジャクシダの群落の中に生育していた。両種の間際の形態をしているが、羽片はやや不規則な形となる。



図2. ハコネオオクジャクシダ

¹⁾ 〒851 2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29-4 亜熱帯植物研究所

11. ヤマヒロハイヌワラビ *Athyrium × pseudowardii* S-eriz (イワデングダ科)

諫早市大場町広域林道横峰越入口 [諫早 3, 4930 30 35], 700m, Aug. 5. 2016, (No 23955); 諫早市高来町多良山系金泉寺下 [諫早 3, 4930 30 57], 680m, Aug. 30. 2015, (No 23956)

ヤマヌワラビとヒロハイヌワラビの雑種。両種の中間の形態をしており、胞子が不稔であることで本雑種とわかる。

12. ムロトムヨウラン *Lecanorchis amethystea* Sawa, H. Fukunaga et S. Sawa (ラン科)

五島市奥浦町奥ノ木場 [福江 4, 4928 06 74], 150 m, Aug. 18. 2000, (No .18796)

クロムヨウランとしていたもので、生育地を五島市の上田浩一氏に伝えておいたところ、そこで採集されたものを神戸大学の末次健司氏に送り、上記の種と同定されたものである。これまで沖縄県と高知県で発見されており、今後九州各地で発見されるものと思われる。クロムヨウランと似ているが茎の高さが20~45cmと大きいこと、花のつく間隔が広く、まばらにつくこと、果実が茎に対してより鋭角につくことなどが特徴である。

13. オテンツキ (チクシテンツキ) *Fimbristylis dichotoma* (L.) Vahl subsp. *dichotoma* var. *tikushiensis* (Hayata) T. Koyama (カヤツリグサ科)

西彼杵郡長与町吉無田郷 [長崎 1, 4929 17 30], 100m, Oct. 4. 2016, (No 23874)

テンツキに似ているが、鞘を除いて植物体全体が無毛であり、多年草であることが特徴である。住宅街の公園内に群生していた。標本は岡山理科大学星野卓二教授にご確認いただいた。

14. オオバクサフジ *Vicia pseudo orobus* Fisch. et C. A. Mey (マメ科)

諫早市高来町多良山系小松公園 [諫早 3, 4530 30 57], 600m, Oct. 26. 2016, (No 23859)

江頭一政氏が発見されたものであり、ご案内いただき確認した。上記の公園の植え込みの中に生育していたもので、植え込みの土と共に他県から運ばれた可能性もあるが、不明である。

15. オオバナムノキ *Albizia kalkora* (Roxb.) Prain (マメ科)

五島市富江町田尾小浜 [富江 3, 4828 76 85], 50 m, Sept. 9. 2016, (No 23820); 五島市岐宿町水ノ浦 [三井楽 2, 4928 05 99], 5 m, Sept. 10. 2016, (No 23832)

中西 (2016b) によってすでに報告しているように、最初上記の富江町において出口敏也氏が発見し、岐宿

町によって筆者が発見したものである。いずれの生育地も道路そばの二次林で、今後多くの産地が発見されるものと思われる。本種は、日本では奄美大島、中之島、宮崎県南部から韓国南部に分布しており、今回の福江島での発見は九州南部と韓国南部の間の分布の空白地域を埋めるものである。

県新産の外来種

15. ロボウガラシ (カラクサハタザオ) *Diplotaxis tenuifolia* (L.) DC (アブラナ科)

長崎市伊王島町馬込 [長崎 4, 4929 06 22], 5 m, May 3. 2005, (No 23939)

ヨーロッパ原産の外来植物で、2005年に採集していたが、種名が不明であった。植村ほか (2010) の図鑑に掲載されており、本種であることがわかった。アブラナに似た黄色の花を咲かせるが、葉に特徴があり、線状長楕円形であるが、切れ込みが深いものや、波状鋸歯があるもの、全縁のものなど変化に富む。

16. アイフウリンホオズキ *Physalis angulata* L. var. *pendula* (Rydb.) Waterf. (ナス科) 図 3



図 3. アイフウリンホオズキ

雲仙市国見町宮ノ地 [荒尾 4, 4930 22 12], Oct. 11. 2016, (No 23873)

北アメリカ原産の外来植物で、葉は線状長楕円形で、萼は長さ 3 ~ 4 mm, 葉や花などがホソバフウリンホオズキとフウリンホオズキの中間的な形質である。上記の地の溜池の干上がった場所に生育していた。

17. モミジヒルガオ *Ipomoea cairica* (L.) Sweet (ヒルガオ科) 図 4

長崎市栄上町 [野母崎 3, 4829 76 76], Oct. 6. 2016

熱帯アフリカや東南アジアなどに広く分布しているが、原産地は熱帯アフリカと言われている。琉球列島には帰化しており、ややふつうに見られるが、ピンク色の花で、園芸種と思われる。それと同じタイプのも

のが、上記の地で野生化しているのを発見した。斜面にかなり広く被っている。長崎県内では初めての記録である。琉球列島においても結実はまれで、主に栄養繁殖によって繁殖している。



図4．モミジヒルガオ

希少植物の新産地

7．ハチジョウシダ *Pteris fauriei* Hieron (イノモトソウ科)

南松浦郡新上五島町相ノ島 [有川3, 4929 31 05], 80m, May. 8. 2016, (No 23641)

県内の分布は最初、男女群島で発見され、その後福江島からも記録された。平戸紀要特集号編集委員会(2015)には平戸市に記録されているが、筆者は確認していない。本種は他のハチジョウシダ類と異なり、照葉樹林の林床に生育しており、県内では離島部に点々と生育していることになる。

8．キキョウラン *Dainella ensifolia* (L.) DC (ススキノキ科)

五島市富江町長峰郷琴石 [玉の浦1, 4828 75 25], 50m, Sept. 9. 2016, (No 23828)

五島市玉之浦町太田～大宝 [玉の浦, 4828 75 33], 160m, Sept. 9. 2016, (No 23851)

本種の長崎県の分布は中西(2015)によって分布図

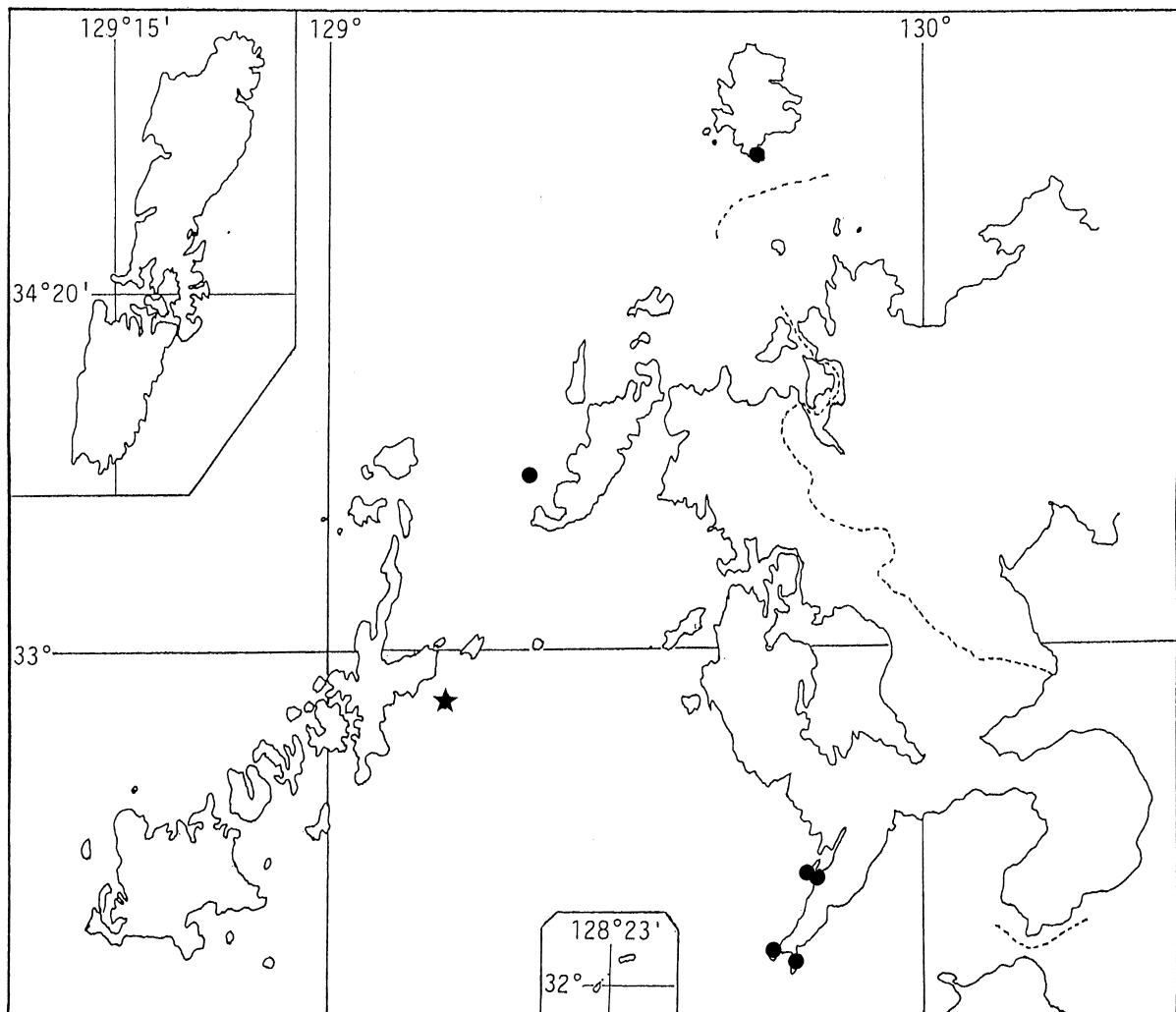


図5．長崎県におけるギョクシンカの分布．★は新産地を示す。

が示されているように、西彼杵半島北西部から西方向へ島嶼部をへて五島列島北部までが知られていたが、

9. ギョクシンカ *Tarenna kotoensis* (Hayata) Kaneh. et Sasaki var. *gyokushinkwa* (Ohwi) Masam. (アカネ科)

南松浦郡新上五島町相ノ島 [有川3, 4929 31 05], 80m, May. 8. 2016, (No 23640)

これまで長崎市南部の樺島、野母崎、香焼と壱岐、平戸市の下阿値賀島に知られていたが、五島列島には知られていなかった(図5)。上記の地は五島列島の一部であり、今後五島列島南部にも発見される可能性がある。明らかにされた分布地点はほとんどが島嶼である。亜熱帯植物が分布の北限地域で、小さな島嶼に限られるものを島嶼偏在植物とよんでおり(中西2010)、本種も島嶼偏在植物と言える。

10. ヒメキシワタ *Matsumurella tuberifera* (Makino) Makino (シソ科)

南松浦郡新上五島町相ノ島 [有川3, 4929 31 05] 80m, May 8. 2016, (No 23635)

県内ではこれまで対馬市上県町と五島市福江島各地に知られていた。今回発見された生育地はこれらの間を埋める産地である。長崎県本土側には見られず、離島に広く分布することになる。

11. オオバナヤエムグラ *Galium pseudoasprellum* Makino var. *pseudoasprellum* (アカネ科) 図6



図6. オオバナヤエムグラ

壱岐市石田町筒城仲触 [勝本3, 5029 55 72], 4m, May 20. 2016, (No 23986)

本種はこれまで外山(1980)によって飯盛町の井樋尾岳から記録されていたが、現状は不明のままであった。日頃から本種を確認したいと思い、ヤエムグラの大きなものを注意していたが、発見できずにいた。壱岐の海岸で見慣れないヤエムグラの仲間を見つけ、果実をつけていたので、採集し、調べた結果、本種であることがわかった。ヤエムグラより葉はかなり小さく、紛らわしい和名である。本種の特徴は果実にかぎ状の毛があることである。

引用文献

川内野善治 2015. 北松浦半島の植物観察記録(9).

長崎県生物学会誌76: 91-97.

平戸紀要特集号編集委員会 2015. 平戸の自然誌. 254pp., 平戸市, 平戸.

中西弘樹 2010. 九州北部における島嶼偏在植物の分布と生態. 植生学会誌27: 1-9.

中西弘樹 2015. 長崎県植物誌. 388pp., 長崎新聞社, 長崎.

中西弘樹 2016a. 新長崎県植物誌ノート(長崎県植物補遺). 長崎県生物学会誌78: 18-21.

中西弘樹 2016b. 長崎県五島で発見されたヒロハネムとオオバナム. 長崎県生物学会誌79: 59-61.

外山三郎 1980. 長崎県植物誌 321pp., 長崎県生物学会, 長崎.

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹 2010. 日本帰化植物写真図鑑. 第2巻. 579pp., 全国農村教育協会, 東京.